

「受験生」になる準備ができているか確認しよう

ここで挙げているのは、受験生になるにあたってのチェックポイントです。一つでも当てはまるものがある人は、今のうちに改善しておきましょう。

■チェック1 学習習慣

国語 ☐ 授業中はノートを書くことに集中して、先生の口頭での説明を聴いてメモすることができていない。

☐ 古典の予習では、本文をノートに写したり、教科書ガイドの訳を写したりするだけで終わってしまい、自分で本文訳を考えることはしていない。

☐ 古典の辞書を引くときに、他の用法や意味は確認しない。

⇒受験生であっても、授業中心の学習を続けることが大切です。古典の予習の際には、辞書を活用して本文訳を考えるとところまで行うようにしましょう。

数学 ☐ 問題演習は試験前にまとめて行う。

☐ 平日の学習時間が1時間未満である。

☐ 定期考査前の学習として、公式・定理の暗記しかしていない。

☐ 応用問題を解くとき、わからないとすぐに答えを見る。

⇒数学では基本的なことを理解したうえで問題演習を多く解くことが大切です。毎日の復習を大切にするのはもちろん、定期考査や模擬試験前後には問題演習を行うようにしましょう。

英語 ☐ 予習はせず、定期考査前にまとめて学習する。

☐ 定期考査後は間違えたところだけを確認し、全体の復習はしない。

☐ 辞書を引くときは、意味だけを確認し例文までは見ない。

☐ 長文読解で、わからない単語があるとすぐにあきらめる。

⇒英語の文章を読む力をつけるために、予習など普段の学習の中で辞書を活用し、幅広い語彙を身に付けましょう。また、わからない単語があった場合は、前後の文脈から意味を推測する練習も大切です。

■チェック2 進路・生活

☐ 志望校・学部・学科での詳細な研究内容を調べていない。

☐ 「受験勉強を始めるのはまだ早い」と思っている。

☐ 模擬試験後の復習はしないことのほうが多い。

☐ 起床時間や就寝時間などが不規則で、生活リズムが固定できていない。

⇒志望校はもう決まっていますか。目標が決まれば、「目標達成に必要な学力」と「現在の学力」とのギャップを把握でき、「これから何をすべきなのか」が明確になります。また、受験勉強において模擬試験を活用することも大切なポイントです。

以上、新3年生になるにあたってのチェックポイントでした。新2年生もあつという間に受験生になってしまいます。新2年生は以下のチェックを行い、真の「市高生」になってください。

☐ 将来やりたいことについて、職業や学問などを調べていない。

☐ 平日の学習時間が2時間未満である。

☐ 毎日の学習を始める時刻が決まっていない。

☐ 起床時間や就寝時間が不規則である。

☐ めったに読書（新聞も含む）をしない。

☐ 課題は解答や友達のものを写すことが多い。

☐ 定期考査の対策は、試験の2、3日前から行う。

志望校決定のポイント

■ 研究内容やカリキュラムを重視しよう！

「学部・学科」は当然のように重視されていますが、「知名度」や「難

易度」で志望校を考える人が多いようです。しかし、大学や専門学校は「入学すること」が目的ではなく、「将来の夢を叶えるためのワンステップ」にすぎません。それぞれの学校の研究内容やカリキュラムについても、できる限り詳しく調べておきましょう。

■ 同じ学部名であっても研究内容はさまざま！

学部や学科名が同じでも、大学や専門学校によって学べることや研究している内容は大きく異なることもあります。大学や専門学校の多くは、カリキュラムやシラバス（授業計画）、研究者、研究内容などを、入学案内パンフレットやホームページなどで詳しく紹介しています。また、オープンキャンパスで実際に講義を体験することもできます。自分の志望校では、どんな講義を受けることができるのか、事前にしっかりチェックしておきましょう。

■ オープンキャンパスに行ってみよう！

入学案内パンフレットやホームページで調べても、わからないことは出てくると思います。オープンキャンパスに参加して、体験講義を受けたり、大学・専門学校の先生や学生と直接会って現実を「体感」したりすることも大切です。春休みに開催されるオープンキャンパスもあるので、参加してみたいはいかがでしょうか。

小論文入試で求められる力とは？

読解力

資料読解型の小論文では必須の力。要約問題はまさに読解力を問うもの。受験生が陥りがちなのは、その設問が要約を求めているのにそれに気づかず、自分の考えや意見を書いてしまうこと。要約に自分の意見を加えてはいけません。

論理的思考

自分の考えを順序立てて整理して、「こういう理由から、こういうことが言える」という筋の通った説明をする力。原稿用紙に書き始める前に、自分の意見と理由、具体例に論理的なつながりがあるかどうかを確認しておくこと。

意見と理由

自分の考えを他人にわかりやすく伝える力があるかどうか。それに加えて「物事を相対化できる力」を持っているかどうかも重要です。自分の意見だけを主張するより、客観的な事実や他者の意見も踏まえて、「AやBという見方もできるが、自分としてはこういう理由でCだと考える」という自分の意見が読み手に明確に伝わるとよい。

⇒出題内容を正しくとらえる「読解力」、根拠を基に論を組み立てていく「論理的思考力」、自分の考えを他人に伝える「意見と理由」を見るのが小論文入試です。自分の文章を他者が読むということを意識して論述できるかどうかが鍵。

⇒大学や学部によって出題形式やテーマは様々だが、共通して言えるのは、その大学・学部「適性」があるかどうか。学校案内やWEBサイトなどで志望校のことをしっかり調べておくことと、志望理由を整理しておくことも必要。ある国立大学のアドミッションセンターの教授は「小論文を書く前（入試当日よりも前）に構想ができているかどうか」が鍵」と語る。考える経験を少しでも多く積んで入試本番に臨みたい。

日常的にすること

- ① 本を読む…新書でかまわないので読み続ける。受験生が本を読まなくてよいということはない。
- ② 多面的に考える…物事を一面から考えず、別の角度から見るとどうなるかを想定するよう心がける。
- ③ 言語化…自分の考えを文字にする、つまり書く。文章を音読してみることも必要。友人と討論できるようになればなおよい。